令和６年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

愛媛県立三崎高等学校

１　取組の目的

（１）　生徒・教職員が伊方町の地理的情報と災害について正しく理解し、危機意識を高め、自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。

（２）　南海トラフ地震による原子力災害の被害が想定されるなど、伊方町の特徴ある地形や想定される災害について、正しく理解する。

（３）　防災士資格取得者を中核教員として位置づけ、学校と教職員の災害時の役割を理解し、教職員の防災に関する資質を向上させる。

（４）　減災につながる社会づくりの重要性を認識するとともに、モデル地域内における他校種や地域と連携して、一体となって社会づくりに貢献できる実行力を身に付ける。

（５）　災害に関する専門家からの指導・助言により、実践的な知識を習得する。

２　取組の内容

６月 14 日　人権・同和教育 HR＋防災教育講演会①～いのちの講座～

①５時間目「クラス活動」

人権・同和教育 HR と関連付けた防災教育を行った。５時間目は「避難所での人権」をテーマとしてクラス単位でグループワークを行った。６時間目はまとめたクラスの意見を代表者が発表し、全体で共有することができた。

６月 20 日　防災教育講演会②～備えは大丈夫！？～

佐田岬みつけ隊の黒川信義様を招いて「備えは大丈夫！？」の講演を開催した。地震のメカニズムを学び、どのように地震が発生しているのか学ぶことができた。また、南海トラフ地震が具体的にいつ起きるのかを想定し、人生設計の中でどのように防災・減災するのか考えることができた。

７月３日　第１回避難訓練「予告なし避難訓練」

第１回防災避難訓練は予告なしで実施し、地震発生後に火災が起こったと想定した。火災による通行禁止区域を設定した避難経路の確認を行った。また、消火器の使い方を演示で確認し、クラスの代表者による消火訓練を実践することで、消火器の使い方を再確認することができた。

７月３日　防災教育講演会③～能登半島地震被災地支援活動報告～

伊方町役場の林善法様を招いて「能登半島地震被災地支援活動報告」の講演会を開催した。能登半島地震の被害の大きさや復興が進まない原因を理解することができた。また、三崎高校も半島に立地しているため同様の被害が起こることを想定する必要があると感じた。

８月７日　311 被災地視察研修

３１１被災地視察研修に参加し、東日本大震災の被災地を多く訪れた。「大川小の悲劇」、「釜石の出来事」など当時、メディアに取り上げられていた被災地の語り部さんから当時の様子や現在の思い、13 年間の気持ちの変化を知ることができた。また、自分事として捉え、多くの人に語り継ぐ大切さを学んだ。

９月 26 日　三崎中学校出前授業

総合的な探究の時間の有志生徒による防災グループが三崎中学校へ出前授業を行った。防災食として利用されるホットケーキミックスを使った蒸しパンを中学生と一緒に調理することで、中学生との交流を深めることができた。また、防災グループが考案した「防災カードゲーム」に一緒に取り組むことで防災意識を高めることができた。

10 月 17 日　第２回避難訓練「愛媛県原子力防災訓練」

愛媛県原子力防災訓練に参加した。伊方町顔認証システムによる受付を実施し、クリーンエアドームを体験することで、原子力災害時の避難行動を確認することができた。また、海上保安庁巡視船「いよ」に乗船し、海路避難の内容を確認することができた。

10 月 29 日　家庭クラブによる防災ボトルの作成

100 円均一のグッズを使ってカバンに入れて携帯できる防災ボトルを作成した。災害時に必要なものを考えることができた。また、文化祭で展示を行うことで、防災意識を高めることができた。

11 月８日　みさこう STEAM 授業×防災教育

地歴公民科と理科は「温故知新～僕たちはどう生き残るか～」をテーマに、過去の災害から南海トラフ地震への対策を居住地ごとにグループで考え、ポスター発表を行った。保健体育科と商業科は「Let’s 防スポ～体育祭種目を考えよう～」をテーマに、体育祭種目を考え、動画を作成し、コンペティションを行った。

11 月 22 日　第３回避難訓練「保小中高合同避難訓練」

①自宅生避難訓練

緊急地震速報受信装置「デジタルもぐら」を利用して避難訓練を行った。地震発生からグラウンド避難までの避難行動を再確認することができた。

②寄宿舎生避難訓練

各寄宿舎から保育園児、小学生、中学生と合流して三崎高校への避難を行った。リアルな場面を想定し教員の引率なしで避難させるなど、生徒が主体的に意思決定できる避難訓練を行った。また、負傷者を想定し、車いすで運搬後、避難所の救護班へ受け渡すなどの実践的な訓練を行うことができた。

④避難所設営・体験

段ボールベッド、ファミリーテント・簡易トイレなどを組み立て、避難所を開設し、小学生、中学生に向けて体験会を開催した。組み立て方法が難しく時間がかかってしまったが、避難所開設を練習することができた。

11 月 22 日　311 被災地視察研修報告会

311 被災地視察研修の報告を全校生徒に向けて開催した。東日本大震災の被害を再確認し、防災への意識を高めることができた。また、避難行動において大切なことや語り部たちの思いを共有することができた。

12 月 3 日　防災教育講演会④～伊方町避難行動計画について～

伊方町役場の畑中保人様、朝見幸司様を招いて「伊方町避難行動計画について」の講演会を開催した。伊方原子力発電所の被害を想定した避難パターンを理解することができた。また、避難グッズや常時の備えについて再確認することができた。

３　取組の成果

合同避難訓練を通して、三崎保育所、三崎小学校、三崎中学校との連携を強化できたことは大きな成果であった。今後も連携して地域の防災活動に取り組んでいきたい。また、本校では地震の想定などをよりリアルなものに変更し、生徒、教職員一丸となって真剣に取り組むことができた。

本事業を通して、危機管理マニュアルを改訂できたことは大きな成果である。既存のマニュアルから新たに作り変える過程で、本校教職員に校閲を依頼することで危機管理マニュアルの内容周知を図ることができた。また、合同避難訓練では危機管理マニュアルに記載された内容に沿って行動することで各教職員の役割について共通理解を図り、避難訓練を通して加筆、修正すべき点を一緒に考えてもらった。

伊方町役場の防災担当職員を講師として招いて実施した伊方町避難行動計画についての講演会では、地震や津波、原子力災害などの複合災害が起こった際、パターン別の避難方法を理解することができた。本校は生徒、教職員ともに伊方町出身者は少なく、保護者からの問い合わせも多かったため、非常に有意義な機会となった。

311 被災地視察研修では、宮城県や岩手県の甚大な被害を受けた被災地を本校防災担当教員が訪問し、語り部の方々から当時の様子や 13 年経過した現在の心境などを伺うことができた。また、震災遺構は当時の様子を保存しており、自然災害の怖さを実感できたことは、今後起こりうる南海トラフ地震への備えに大いに役立つものと考える。また、生徒に報告会を行った際、生徒も真剣に聞いており、災害について本気で取り組まなければならないという意識を再度向上させることができたと考える。

４　今後の課題

本事業の指定を受けてから防災について深く考えるきっかけとなった。特に 11 月に行われた合同避難訓練は例年以上に真剣に取り組むことができたと考える。地震の想定などもよりリアルに設定して取り組むことができたが、実際に災害が起きた時は予想外の事態は必ず起こる。緊迫した状況で不測の事態に対応できるよう、よりリアルな状況設定を行い、避難訓練を含めた防災教育に本気で取り組む必要があると考える。また、これまでは各学校種のみの参加であったが、今回は一部の地域の方々も参加してもらった。今後は生徒たちによる高齢者支援や自主防災組織や自治体と連携した避難所運営を訓練する必要があると考える。

本校は全国募集を行っており、全校生徒の約３割が愛媛県外出身、約７割が伊方町外の生徒である。また、伊方町出身の教職員も少なく地理的に詳しくない者が多い。アンケート結果からも「伊方町の地理的情報と災害について正しく理解することが出来ましたか。」の項目は他の項目に比べて低い結果となっている。伊方町の地理的な特徴と災害についての研修や講演なども取り入れたが、今後も継続的に実践していく必要があると考える。また、本校生徒の 60%が寄宿舎生のため、防災教育を通して保護者と関わる機会が少ない。本事業に指定されたことによりマチコミ等を利用して、例年以上に防災教育の取組についての周知は行ってきたが、学校で開催する講演会などへの参加率は例年と同程度であった。今後は、遠方の保護者への防災教育の周知や防災意識を高める方法を模索していく必要があると考える。

本校は指定避難所に指定されており、高校生は避難所の環境づくりや清掃など、体力や機動力を活かした活動が期待される。また、避難所で生活する被災者は多くの不安を感じており、高校生が高齢者や子どもたちに話しかけ、不安を共有するだけでも被災者の心の不安は軽くなるのではないかと考える。これまでの本校の防災に関する取組は、発生前や発生時の訓練を行ってきたが、今後は発生後、避難所運営についての訓練を実践していく必要があると考える。